

3 今後の備えについて

(1) 老後に備えた民間保険等の加入状況について

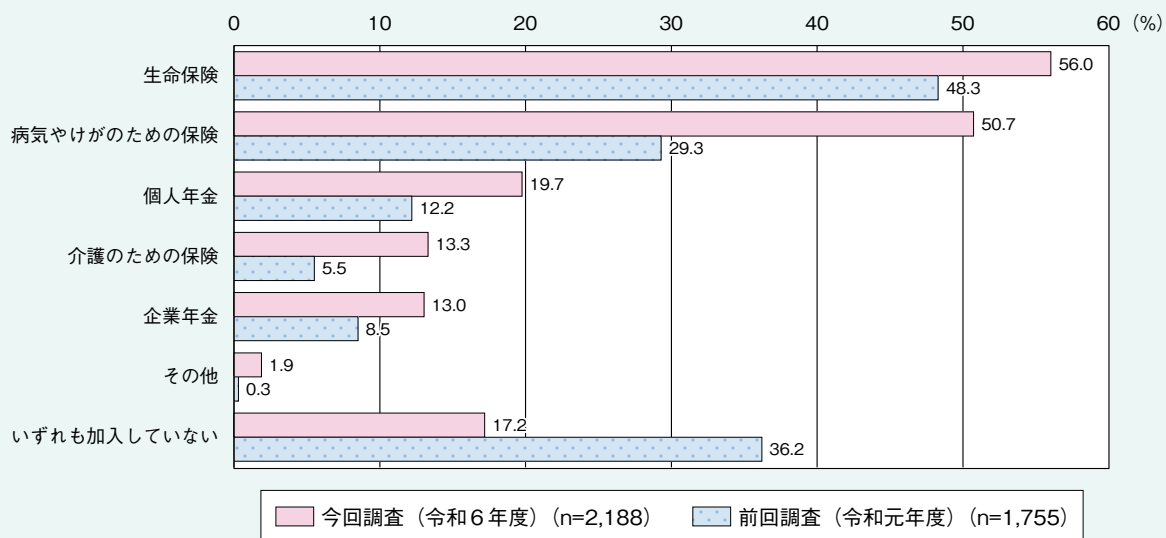
全国の60歳以上の男女に、公的年金・保険のほかに、老後の備えとして私的な年金・保険（民間保険等）に加入しているかを聞いたところ、「生命保険」と回答した割合が5割以上で最も高く、次いで、「病気やけがのための保険」と回答した割合が高い。また、前回調査時と比較すると、「生命保険」、「病気やけがのための保険」、「個人年金」、「介護のための保険」、「企業年金」、「その他」は増加しているが、「いずれも加入していない」は減少している。

業年金」と回答した割合はいずれも上昇しており、「いずれも加入していない」と回答した割合は大きく低下している（図1-3-22）。

性・年代別で見ると、「いずれも加入していない」と回答した割合は、65歳以上においては、男女共に年代が高くなるほど高い。また、男女共に65～69歳が民間保険等に加入している割合が一番高かった。

家族形態別で見ると、ひとり暮らしの人は、「いずれも加入していない」と回答した割合がひとり暮らし以外の人を大きく上回っている（図1-3-23）。

図1-3-22 老後に備えた民間保険等の加入状況（前回調査との比較）



資料：内閣府「令和6年度高齢社会対策総合調査（高齢者の経済生活に関する調査）」、内閣府「令和元年度高齢者の経済生活に関する調査」
 （注1）複数回答。
 （注2）「不明・無回答」は除いている。

図1-3-23 老後に備えた民間保険等の加入状況（性・年代別、ひとり暮らしとそれ以外の比較）

（％）

		個人年金	企業年金	病気やけがのための保険	介護のための保険	生命保険	その他	いずれも加入していない
全体	男性（n=1,092）	19.5	16.9	50.4	14.0	56.1	1.7	17.2
	女性（n=1,095）	19.9	9.0	51.1	12.6	55.9	1.9	17.2
60～64歳	男性（n=208）	37.0	22.6	53.4	15.4	63.9	1.9	13.9
	女性（n=178）	34.3	14.6	58.4	18.5	62.9	1.7	11.8
65～69歳	男性（n=220）	21.8	19.5	59.5	19.5	61.8	1.4	10.9
	女性（n=212）	24.5	9.9	67.5	17.0	67.9	1.4	8.0
70～74歳	男性（n=226）	15.9	13.7	57.5	12.4	55.3	1.8	14.6
	女性（n=223）	16.1	9.0	56.1	14.3	56.1	1.8	13.5
75～79歳	男性（n=211）	14.7	13.7	49.8	12.8	55.9	1.9	17.5
	女性（n=216）	18.1	8.3	47.2	11.6	54.2	2.3	15.3
80～84歳	男性（n=134）	12.7	14.2	38.8	11.2	47.8	2.2	24.6
	女性（n=140）	10.7	3.6	42.9	5.7	48.6	2.1	26.4
85歳以上	男性（n=93）	4.3	17.2	22.6	8.6	39.8	1.1	34.4
	女性（n=126）	11.9	7.1	20.6	3.2	36.5	2.4	39.7
65歳以上（再掲）	男性（n=884）	15.4	15.6	49.7	13.7	54.3	1.7	18.0
	女性（n=917）	17.1	8.0	49.7	11.5	54.5	2.0	18.2
75歳以上（再掲）	男性（n=438）	11.9	14.6	40.6	11.4	50.0	1.8	23.3
	女性（n=482）	14.3	6.6	39.0	7.7	47.9	2.3	24.9
家族形態	ひとり暮らし（n=366）	16.4	8.7	41.5	9.8	39.6	1.6	25.4
	ひとり暮らし以外（n=1,644）	20.5	13.4	53.3	14.2	60.5	2.1	15.5

資料：内閣府「令和6年度高齢社会対策総合調査（高齢者の経済生活に関する調査）」

（注1）複数回答。

（注2）「不明・無回答」は除いている。

(2) 老後のために必要だと思う備えについて

全国の60歳以上の男女に、老後の備えとして、今後どのようなことに取り組む必要があるかを聞いたところ、「健康に関する備え（健康の維持・増進、介護予防、保険、病気やけがの治療等）」と回答した割合が約8割で最も高く、次いで、「終活関係の準備（自身の葬儀やお墓の準備、財産等の整理・相続の準備）」と回答した割合が約4割となった。また、「財産管理に関する備え（認知機能の低下等に伴う、財産管理の相談（金銭管理サービスの利用等）」と回答した割合は1割未満で最も低い（図1-3-24）。なお、65歳以上について見ると、全体と比較した際、「資産形成（貯蓄・投資）など」と回答した割合が低かった。

性・年代別で見ると、「資産形成（貯蓄・投資）など」と回答した割合は男女共に年代が高くなるほど低く、女性は各年代において「防災・防

犯に関する備え（住宅の防災対策、防災用品の備蓄、防犯システムの利用等）」と回答した割合が男性を上回っている。また、男女共に、85歳以上を除く各年代において「財産管理に関する備え（認知機能の低下等に伴う、財産管理の相談（金銭管理サービスの利用等）」と回答した割合が最も低い。

家族形態別で見ると、同居者の有無にかかわらず、「健康に関する備え（健康の維持・増進、介護予防、保険、病気やけがの治療等）」と回答した割合が最も高く、「財産管理に関する備え（認知機能の低下等に伴う、財産管理の相談（金銭管理サービスの利用等）」と回答した割合が最も低い。また、親と同居している人は「住まいに関する備え（住宅の確保やリフォーム、修繕等）」と回答した割合がそれ以外の人を上回っている（図1-3-25）。

図1-3-24 老後のために必要だと思う備え（全体）

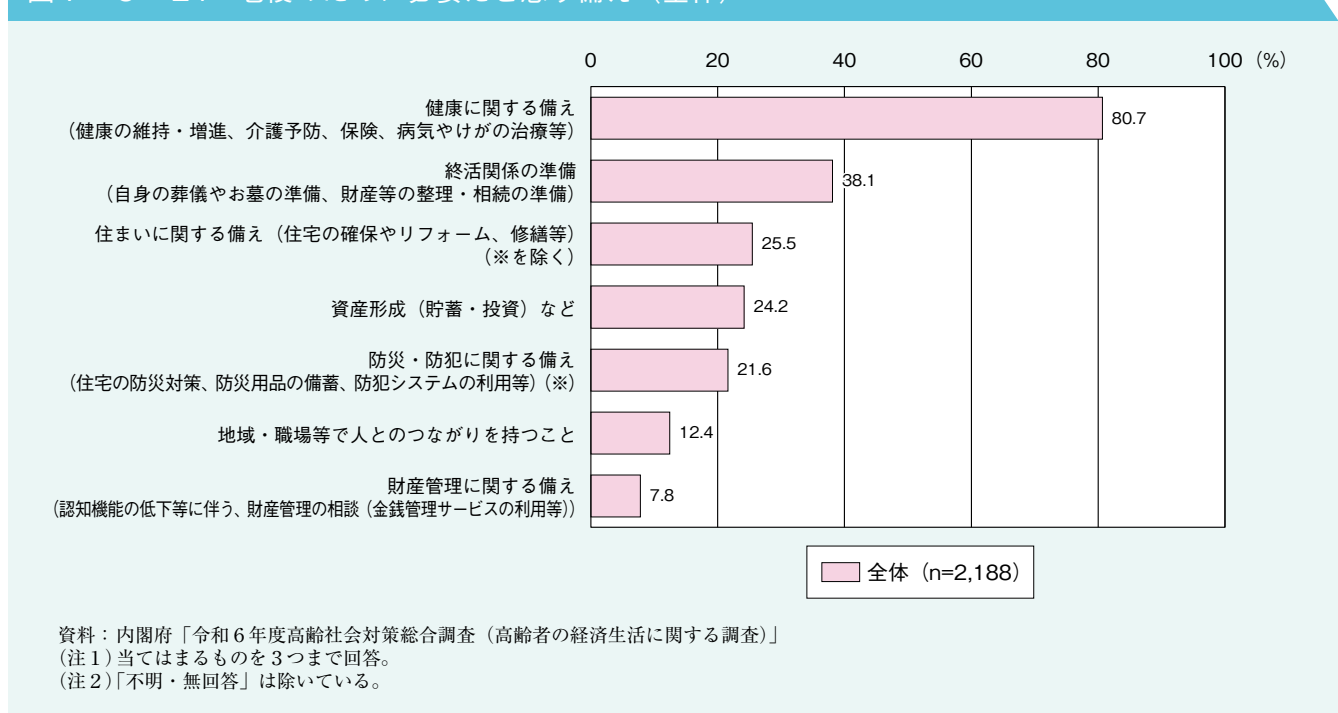


図1-3-25 老後のために必要だと思う備え（性・年代別、家族形態別）

(%)

		資産形成（貯蓄・投資）など	健康に関する備え（健康の維持・増進、介護予防、保険、病気やけがの治療等）	防災・防犯に関する備え（住宅の防災対策、防災用品の備蓄、防犯システムの利用等）（※）	住まいに関する備え（住宅の確保やリフォーム、修繕等）（※を除く）	地域・職場等で人とのつながりを持つこと	財産管理に関する備え（認知機能の低下等に伴う、財産管理の相談（金銭管理サービスの利用等））	終活関係の準備（自身の葬儀やお墓の準備、財産等の整理・相続の準備）
全体	男性（n=1,092）	27.8	81.4	19.1	28.3	11.9	8.5	36.3
	女性（n=1,095）	20.5	80.0	24.1	22.6	13.0	7.1	40.0
60～64歳	男性（n=208）	44.7	81.7	15.9	28.8	17.3	10.1	28.4
	女性（n=178）	42.1	81.5	23.0	19.7	14.0	10.1	38.8
65～69歳	男性（n=220）	35.0	87.3	18.2	35.0	11.4	9.1	36.4
	女性（n=212）	24.5	86.8	23.1	25.5	12.7	6.6	44.8
70～74歳	男性（n=226）	30.1	83.2	20.8	25.7	9.3	8.4	39.8
	女性（n=223）	19.7	84.8	25.1	24.2	11.7	4.5	41.3
75～79歳	男性（n=211）	17.5	78.2	21.3	27.0	11.8	5.7	35.5
	女性（n=216）	13.0	76.9	25.0	20.4	17.1	6.9	34.7
80～84歳	男性（n=134）	15.7	82.8	21.6	29.9	11.2	6.0	44.0
	女性（n=140）	11.4	70.0	27.9	25.0	12.9	5.0	37.9
85歳以上	男性（n=93）	8.6	67.7	16.1	18.3	8.6	14.0	35.5
	女性（n=126）	7.1	74.6	19.8	19.8	7.1	11.1	42.9
65歳以上（再掲）	男性（n=884）	23.9	81.3	19.9	28.2	10.6	8.1	38.1
	女性（n=917）	16.2	79.7	24.3	23.1	12.8	6.5	40.2
75歳以上（再掲）	男性（n=438）	15.1	77.4	20.3	26.0	11.0	7.5	38.1
	女性（n=482）	11.0	74.3	24.5	21.6	13.3	7.5	37.8
家族形態	同居者はいない（ひとり暮らし）（n=366）	17.8	75.1	18.0	18.0	14.5	10.4	36.3
	配偶者あるいはパートナーと同居（n=1,212）	28.5	84.6	23.2	27.6	13.3	7.5	38.1
	親（配偶者あるいはパートナーの親を含む）と同居（n=112）	45.5	80.4	15.2	33.0	8.9	4.5	32.1
	子（子の配偶者あるいはパートナーを含む）と同居（n=673）	23.9	78.5	23.9	26.0	11.1	6.4	39.8
	その他（親族以外を含む）（n=75）	29.3	77.3	17.3	25.3	13.3	10.7	38.7

資料：内閣府「令和6年度高齢社会対策総合調査（高齢者の経済生活に関する調査）」

（注1）当てはまるものを3つまで回答。

（注2）「不明・無回答」は除いている。

(3) 今後の生活の中で準備しているものについて

全国の60歳以上の男女に、今後の生活の中で準備をしているものを聞いたところ、「準備しているものはない」と回答した割合が約4割で最も高く、次いで、「身の回りの所有物の整理」、「お墓の準備」、「葬儀の準備」と回答した割合が高い（図1-3-26）。

性・年代別で見ると、女性は85歳以上を除く各年代において「身の回りの所有物の整理」、「葬儀の準備」、「お墓の準備」等と回答した割合が男性を上回っており、男性は85歳以上を除く各年代において「準備しているものはない」と回答した割合が女性を上回っている。

家族形態別で見ると、同居者の有無にかかわらず、「準備しているものはない」と回答した割合が最も高い一方、親と同居している人は、次いで、「葬儀の準備」が高いほか、親と同居している人を除いては、「身の回りの所有物の整理」と回答した割合が高い（図1-3-27）。

また、老後のために必要な備えとして「終活関係の準備（自身の葬儀やお墓の準備、財産等の整理・相続の準備）」を挙げた人のうち、今後の生活の中で「準備しているものはない」と回答した割合は約3割となっている（図1-3-28）。

図1-3-26 今後の生活の中で準備しているもの（全体）

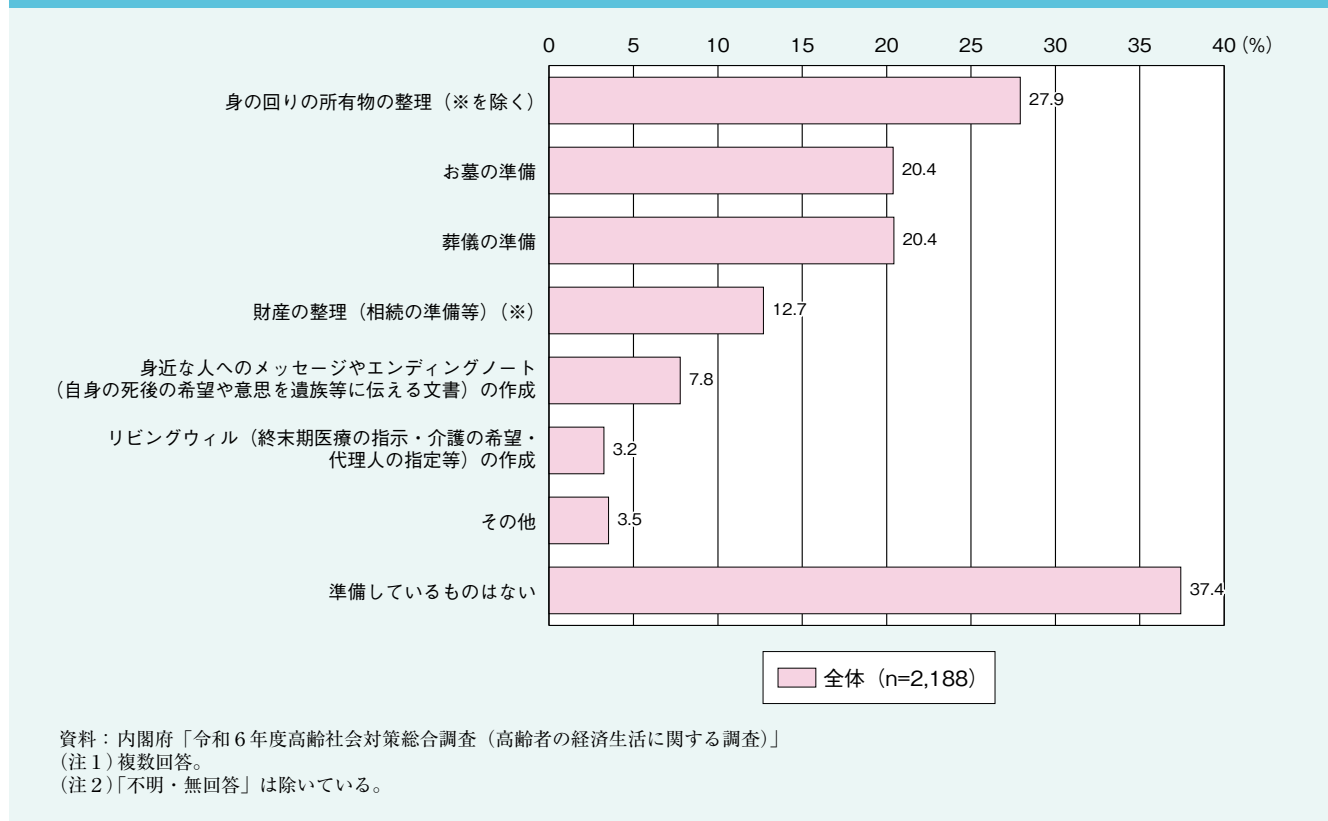


図1-3-27 今後の生活の中で準備しているもの（性・年代別、家族形態別）

(%)

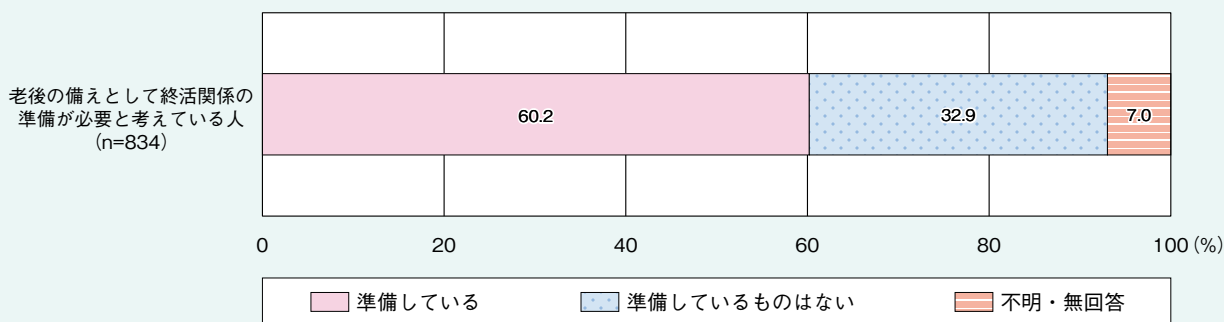
		葬儀の準備	お墓の準備	財産の整理 (相続の準備等) (※)	身の回りの所有物の整理 (※を除く)	身近な人へのメッセージや エンディングノート(自身の 死後の希望や意思を遺族等 に伝える文書)の作成	リビングウィル(終末期医療の 指示・介護の希望・代理人 の指定等)の作成	その他	準備している ものはない
全体	男性 (n=1,092)	17.9	18.8	14.2	23.5	6.0	3.1	3.6	41.6
	女性 (n=1,095)	22.7	22.1	11.1	32.3	9.6	3.4	3.4	33.3
60～64歳	男性 (n=208)	7.2	10.6	8.7	21.2	4.3	1.0	4.3	57.2
	女性 (n=178)	11.8	12.9	6.2	26.4	7.9	2.2	2.2	51.1
65～69歳	男性 (n=220)	15.5	18.2	15.5	21.8	5.9	2.3	3.2	45.9
	女性 (n=212)	23.1	19.3	8.0	32.5	9.4	3.3	0.5	39.2
70～74歳	男性 (n=226)	17.3	18.1	14.6	21.2	6.6	4.0	2.7	39.8
	女性 (n=223)	17.5	20.2	9.0	34.1	6.3	0.9	3.6	34.5
75～79歳	男性 (n=211)	17.5	20.9	15.2	28.0	4.7	3.3	3.3	38.4
	女性 (n=216)	28.2	27.8	15.3	38.0	16.2	5.1	6.0	22.7
80～84歳	男性 (n=134)	29.1	23.9	15.7	28.4	6.0	5.2	3.0	29.1
	女性 (n=140)	31.4	27.1	15.0	37.9	9.3	6.4	5.0	18.6
85歳以上	男性 (n=93)	34.4	28.0	18.3	21.5	10.8	4.3	6.5	25.8
	女性 (n=126)	27.8	27.8	15.9	21.4	7.1	3.2	3.2	31.0
65歳以上 (再掲)	男性 (n=884)	20.5	20.7	15.5	24.1	6.3	3.6	3.4	37.9
	女性 (n=917)	24.9	23.9	12.1	33.5	9.9	3.6	3.6	29.9
75歳以上 (再掲)	男性 (n=438)	24.7	23.3	16.0	26.7	6.4	4.1	3.9	32.9
	女性 (n=482)	29.0	27.6	15.4	33.6	11.8	5.0	5.0	23.7
家族形態	同居者はいない(ひとり暮らし) (n=366)	16.7	15.8	11.5	28.7	8.2	3.8	4.6	38.3
	配偶者あるいはパートナーと 同居 (n=1,212)	19.4	21.0	12.9	28.4	7.8	3.3	2.9	38.3
	親(配偶者あるいはパートナー の親を含む)と同居 (n=112)	19.6	15.2	13.4	18.8	2.7	0.9	0.9	47.3
	子(子の配偶者あるいはパートナー を含む)と同居 (n=673)	21.7	21.4	14.7	31.4	7.7	2.7	3.0	34.9
	その他(親族以外も含む) (n=75)	24.0	22.7	12.0	25.3	8.0	2.7	8.0	34.7

資料：内閣府「令和6年度高齢社会対策総合調査（高齢者の経済生活に関する調査）」

(注1) 複数回答。

(注2) 「不明・無回答」は除いている。

図1-3-28 終活の準備状況（老後の備えとして「終活関係の準備」が必要と回答した人のみ）



資料：内閣府「令和6年度高齢社会対策総合調査（高齢者の経済生活に関する調査）」

（注）「準備している」は、今後の生活の中で準備しているものとして、「葬儀の準備」、「お墓の準備」、「財産の整理（相続の準備等）（※）」、「身の回りの所有物の整理（※を除く）」、「身近な人へのメッセージやエンディングノート（自身の死後の希望や意思を遺族等に伝える文書）の作成」、「リビングウィル（終末期医療の指示・介護の希望・代理人の指定等）の作成」、「その他」のうち、1つ以上選択した人の割合。

4 まとめ

（1）高齢期の就業について

今回調査では、60歳以上の人のうち、現在収入を伴う仕事をしている人、また、75歳くらいまで又はそれ以上まで働きたい人の割合が前回調査時から上昇し、いずれも4割に達しており、高齢期における就業意欲の高まりがみられた。

仕事をする理由としては、収入を上げる人が最も多い一方で、実際に仕事を決める際には、給与等が希望にかなっていないことよりも、自分の経験やスキルを生かせること、自宅から通いやすいこと、仕事にやりがいがあること、仕事内容について体力的な負担が少ないことを重視する傾向がみられた。また、おおむね年代が低い層ほど経験やスキルを生かせることを重視し、年代が高い層ほど仕事内容について体力的な負担が少ないことを重視するなど、個々人の属性に応じて、就業に対するニーズは多様であることが明らかになった。

こうした傾向を踏まえると、高齢期の就業ニーズを踏まえたきめ細かなマッチングの推進を図っていくなど、高齢期においても希望に応

じ働き続けられる環境の整備が重要であると考えられる。

例えば、トピックスの事例1のように、地域の仕事を時間や作業内容ごとに切り分け、地域住民が有する多様な就業ニーズに合致した形でマッチングを行うことは、高齢者の就業促進にも資すると考えられることから、こうした取組が各地で進んでいくことが期待される。

（2）高齢期の経済的状況について

経済的な状況に関しては、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」又は「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」と回答した人の割合が7割弱となっている。

こうした傾向を踏まえると、高齢期における就業促進による安定的な収入の確保のほか、若年期からの資産形成の促進を図っていくことが重要であると考えられる。

（3）老後の備えについて

公的制度と併せ、私的年金や民間保険も老後の生活を支える役割を担っているが、その加入状況について、民間保険等のいずれにも加入し